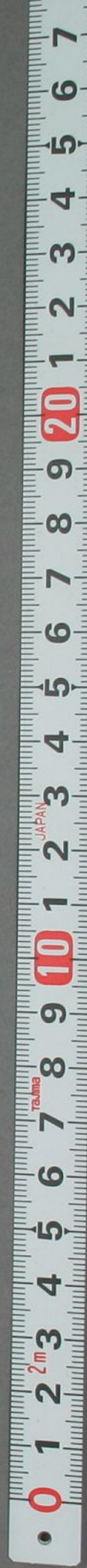


参考保元物語

一下

1747
3
5





官軍被召集事

去程ニ内裏ヨリ左大將公教卿。太政大臣藤實行、京師杉原鎌倉

半井四本作右大將、非也。據公卿補任。藤宰相光頼卿。權中納言藤顯頼子二人

御使ニテ八條烏丸美福門院へ參リ、權右少辨惟

方ヲ以テ。京師杉原鎌倉本無、以、惟、方、句、惟、方、宰、相、光、頼、弟。故院ノ御遺誠

ヲ申出サル。京師本杉原本云、兩人是、此兵亂ノ出

來ランスル事ヲハ、兼テ知召ケルニヤ。内裏へ召

ルヘキ武士ノ交名ヲ註シ置セ給ヘル也。義朝義

康頼政。源、仲、政、子。季實重成。源、重、實、子。即下所謂、佐渡、式部、大輔也。維繁實

俊資經信兼

平盛兼子。即下所謂和泉左衛門尉也。

光信

源光國子。即下所謂出羽

判官也。等也。

○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云。武士ノ交名

ヲ御自筆ニ註シ置レタリ。義朝義康賴政信兼

杉原本誤。作信貞。

實俊以上五人也。

以上半井本同。本書

其中ニ義

朝義康ハ別シテ故院ノ仰蒙テ。去六月ヨリ内

裏ヲ守護シ奉ル上。近日ハ殊ニ諸門ヲ固テ祇

候ス。云云。半井本又云。清盛賴政。佐渡式部大輔

同重成ハ按行ス故院ノ御遺言ノ内ナレハトテ。

女院ヨリ内裏へ進ラセラル。云云。

安藝守清盛ハ多勢ノ者ナレハ。尤召ルヘケレ共。

一宮重仁親王ハ。故刑部卿忠盛ノ養君ニテシ

テセハ。清盛ハ御乳母子ナレハ。故院御心ヲ置セ

給テ。御遺誠ニモ入給ハサリシヲ。女院御謀ヲ以

故院ノ御遺誠ニ任テ。内裏ヲ守護シ奉ルヘント

御使有ケレハ。清盛舎弟子共引具シテ參ケリ

○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云。其外半井本

判官季實。平判官。和泉左衛門尉信兼。云云。按全防此三人。半井本前載。御遺誠十人。中。自。相。齟。齬。職。

事ノ催ニテ參ル。總シテ諸國ノ宰吏兵士ヲ進
ラス。諸衛官人云云。

諸國ノ宰吏諸衛官人六府判官各兵仗ヲ帶シテ
候ケリ。此下京師杉原公家ニハ關白殿下内大臣

實能左衛門督基實。法性寺關伏見源中將師仲。中

言師時子。按公卿補任。師仲保元元年ナトソ參ラ

四月任參議止中將此作中將非也。レケル。半井本云。關白殿以下殿上人ニ

新院御所各門々固カ附軍評定事

新院ハ齋院ノ御所ヨリ北殿へ遷ラセ給フ。左府

ハ車ニテ參給フ。

○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云十日新院齋

院御所。鎌倉本半井本無十日字。半井本云。分内

ヨリ北殿へ入セ給フ云云。杉原本云。御車ニ奉

テ參給

白河殿ヨリ北河原ヨリ東春日ノ末ニ有ケレハ。

北殿トソ申ケル。南ノ大炊御門面ニ東面ニ門ニ

ツアリ。東ノ門ヲハ平馬助忠正承テ父子五人并

ニ多田藏人大夫頼憲。頼憲京師本鎌倉本都合ニ

作頼兼誤。既註于前。

百餘騎ニテ固タリ。

鎌倉本無ニ字。岡崎本云。三百餘騎。京師本杉原本不載兵數。

半井本云。百騎ニ過ス。云云。

西ノ門ヲハ六條判官為義承テ。父

子六人シテ固タリ。其勢百騎許ニハ過サリケリ。

京師本杉原本不載兵數。

是コソ猛勢ナルヘキカ。嫡子義朝ニ

附テ。多分ハ内裏ヘ參ケリ。爰ニ鎮西八郎為朝ハ。

我ハ親ニモ連マシ。兄ニモ具スマシ。高名不覺モ

紛ヌ様ニ。只一人如何ニモ強カラシ方ヘ差向給

ヘ。縱千騎モアレ萬騎モアレ。一方ハ射拂ハンス

ル也トソ申ケル。依テ西河原表ノ門ヲソ固ケル。

○京師本杉原本鎌倉本半井本並云。西ノ門ヲハ

為朝一人シテ承ル。

鎌倉本云。其勢七十餘騎。

西鎌倉本表ハ

河原也。為義父子是ヲ固云云。

鎌倉本云。其勢百五十騎。

北ノ春日表ノ門ヲハ。左衛門大夫家弘承テ。子共

具シテ固タリ。其勢百五十騎トソ聞ヘシ。

京師杉原鎌倉

半井本不載兵數。

○京師本杉原本鎌倉本半井本並云。其外脇ケノ

小門ヲハ。次々ノ兵共各是ヲ承。凡院中ノ御勢

千餘騎有ケレトモ。御所ハ廣シ。方々ヘ分タリ

ケレハ。何クニ人アリトモ見ヘス。云々。

○京師本杉原本鎌倉本並云。新院左府御著背キセカヲ

名。教長京師本杉原本云。教長見進ラセテ。太上

給ハ事。先代未聞。暑キ節ニテ候。サナクトモ

渡ラセ給ヒナント諫申ケレハ。院モ左府モ脱

セ給フ。教長成雅以下。上北面。水干袴ハカニ腹卷ヲ

著ス。武者所。衆甲冑ヲ帶ス。云々。

○半井本云。院モ左府モ御鎧ヲ奉ル。教長有マシ

ウ候。御物具召レ候事惡カリナント申ケレハ。

院ハ御鎧ヲ脱セ給フ。左府ハ猶白綿ノ狩衣ニ。

絲火威ノ鎧ヲ召ケル。教長成雅許シヲ水干袴

ニ腹卷著ル。是ハ戰ハシニハ非ス。流矢ノ為也。

上北面ニ師光家長頼助ハ狩衣袴ノ上ニ腹卷

ヲ著。武者所。衆ハ仰ニテ。皆甲冑ヲ帶ス。云々。

抑抑為朝一人トシテ。殊更大事ノ門ヲ固タル事。武

勇天下ニ許サレシ故也。件ノ男器量人ニ越ス心飽ア

迄剛ニシテ。大力ノ強弓。矢ツキ早ノ手キハナリ。

弓手ノ肘馬手ニ四寸伸ヒキメテテ。矢束ヲ引事世ニ越ス夕

リ。幼少ヨリ不敵ニシテ兄ニモ所ヲ、カス。傍若
 無人也シカハ。身ニ添都ニ置テハ惡カリナント
 テ。父不孝シテ。十三ノ歲ヨリ鎮西ノ方へ追下ス
 二。豊後國自此以下為朝九州戰功。半井本出新院
 名為義段。為義告教長之語。半井本云。
 才トナシ。ニ居住シ。尾張權守家遠ヲメノト、シ。
 京師本杉原本鎌倉本無尾張權守云々句肥後國阿曾平四郎忠景カ
 子ニ。三郎忠國カ壻ニ成テ。忠景。杉原本作高景。京
 師杉原鎌倉半井四本
 不載子忠國直君ヨリモ給ハラヌ九國ノ總追補
 作平四郎壻。使ト號シテ。筑紫ヲ從ヘントレケレハ。菊池原田

ヲ始トシテ。所々ニ城ヲ構ヘテ楯籠レハ。其義ナ
 ラハイテ落シテ見セントテ。イマ夕勢モツカサ
 ルニ。忠國計ヲ案内者トシテ。其義云々。京師杉原
 鎌倉本並無。唯半井
 本忠國作舅忠景。說見干上。十三歲ノ三月。半井本
 作十月末ヨリ十五
 歲ノ十月。半井本
 作三月迄。大事ノ軍ヲスル事二十餘度。
 城ヲ落ス事數十箇所也。城ヲ攻ル謀敵ヲ打術人
 ニ勝レテ。三年カ内ニ九國ヲ皆攻落シテ。自ラ總
 追補使ニ押成テ。半井本云。今年六年ニ成候也。京
 師杉原鎌倉半井四本。自此至宣
 旨及。為義解官年月並不載。而京師杉原鎌倉三本
 並云。鎮西ヲ張行。狼藉法ニ過。九國舉テ訴ケレハ。

判官ニ仰テ召トモ參ラス。其咎ニ依テ為義解官
セラレテ云々。半井本云。為朝力狼藉京迄聞ヘケ
レハ。公家ヨリ召トモ參ラス。為義解
官セラレ。前判官ニフ候ケル云々。惡行多カリ
ケルニヤ。香椎宮ノ神人等。都ニ上リ訴申間古ヘ
久壽元年十一月二十六日。德大寺中納言公能卿
左大臣藤實能子ヲ上卿トシテ。外記ニ仰テ宣旨ヲ下サ
ル。

源為朝久住宰府。忽緒朝憲咸背綸言。梟惡頻聞
狼藉尤甚。早可令禁進其身。依宣旨執達如件
然共為朝猶參洛セサリケレハ。同二年四月三日父

為義ヲ解官セラレテ。前檢非違使ニ成サレケリ。

○按本書及岡崎本。久壽宣旨年月未詳。所據為義
解官年月亦恐妄也。百練鈔云。久壽二年四月三
日。源為朝居豐後國。騷擾宰府。威脅管内。仍可禁
遏。與力輩之由。賜宣旨於太宰府云云。台記久壽
元年十一月二十六日條云。今日右衛門尉為義
五解官。依其子為朝鎮西濫行事也。云云。亦不載
宣旨。據二書說。則久壽元年為義解官。至明年賜
宣旨耶。餘無所考。

為朝是ヲ聞テ。親ノ科ニ當リ給フランコソ殘マ
 シケレ。其義ナラハ。我コソ如何ナル罪科ニモ行
 ハレシトテ。急上リケレハ。國人共モ上洛スヘ
 キ由申ケレハ。大勢ニテ罷上ラン事上聞穩便ナ
 ラストテ。京師本杉原本鎌倉本並云。為朝コソ九
タルカナト云。讒言蒙テ詮ナシ。志アラ形ノ如ク
ニ人ハ追ケニモ上ルヘシト云々。
 二附從フ兵計召具シケリ。乳母子箭前拂須藤九
 郎家季其兄。京師本杉原鎌倉本并四本並云。山法
無其兄字。スキマカクヘノ惡七別當。諸本並云。アキマ
師ノ還俗シタル云々。京師本杉原本

當手取與次同與三郎。鎌倉本不載。杉原本無郎字。
 三郎為三町礫紀平次大夫大矢新三郎。大矢半并
一人。此下載同四郎霞五越矢源太松浦二郎左中次。
夫此下。載同四郎霞五越矢源太松浦二郎左中次。
郎吉田太郎兵衛太郎。越矢源太。松浦二郎。岡崎本云。
越矢以下至此。鎌倉本不載。京師杉原半并本云。
メヤノ源太。同左平次。而不載。松浦二郎。岡崎本云。
ハシリヤ源太。松浦吉田兵衛。岡崎本有太郎。打手。
二郎。而。不載。左中次。
 紀八打手。鎌倉本作手打。京師杉原高間三郎同四
 郎。以上二人。半ヲ始トシテ。二十八騎ヲ具シタリ
 井本不載。
 ケル。鎌倉本云。是等ハ一人當千ノ兵也。其勢都合
 五十餘騎云々。按鎌倉本前云。為朝勢七十餘
 騎。自
 齧。齧。

○京師本杉原本竝云。カナユフシノ彌平次彌京師本作是等ヲ始トシテ。杉原本云。一騎當千ノ兵十七騎。都合五十餘騎ニハ過ス。云々。

依テ去年ヨリ在京シタリシヲ。父不孝ヲ赦シテ。今度ノ御大事ニ召具シケル也。以下異本。說為朝別出于下。ハ七尺許ナル男ノ。目角ニツキレタルカ。緝地ニ色々ノ絲ヲ以テ獅子丸ヲ縫タル直垂ニ。八龍ト云。鎧ヲ似セテ。白キ唐綾ヲ以テ威シタル。大荒目。鎧。同獅子金物打タルヲ著マ、ニ。三尺五寸ノ太

刀ニ。熊皮ノ尻鞆入。五人張ノ弓。長サ七尺五寸ニテ。ツク打タルニ。三十六差タル黒羽ノ矢負。兜ヲハ郎等ニ持セテ歩出タル體。樊噲モ角ヤト覺テ由々シカリキ。謀ハ張良ニモ劣ラス。サレハ堅陣ヲ破ル事。吳子孫子カ難トスル處ヲ得。弓ハ養由ヲモ恥サレハ。天ヲ翔ル鳥。地ヲ走ル獸。恐スト云事ナシ。上皇ヲ始進ラセテ。アラユル人々。音ニ聞ユル爲朝見ントテユフリ給フ。

○京師本杉原本鎌倉本半井本竝云。其後為義ヲ

召テ合戰ノ次第半井本云。左御尋アリ。為義長

縮直垂ヒタタニ黒絲威鎧ヲ著。白髮糟尾シガカニ過タリ。畏

テ申ケルハ。已前申上候如ク。為義合戰ニ練セ

又者ニテ候。半井本云。已前教長ニ申ツル如ク

身ニ成候間。大功成為朝ニ召問ルヘシトテ罷

立。彼為朝サル者ト兼テ聞召置タル上。父是程

ニ舉シ申ハ。様有ヘシトテ召出サル。氣色事カ

ラ頗ツラ魂誠ニイカメシケナル者也。鎌倉本云。其

長七尺許。生附タル弓取ニテ。弓手ノカイナ妻

手ヨリ四寸長ケレハ。矢束ヲ引コト十五束。半井

本云。十弓ハ八尺五寸。長持ノ柄ニモ過タリ。半井

八束。三人シテ張。鎌倉本云。張時ハ三人ニ

タヲメサセテ。一人ヨリテ弦ヲカク云々。矢ハ

三年竹ノ極テ節近ニ金色ナルヲ。洗ヒ磨カハ

性弱リナントテ。節ハカリユソケ。木賊ヲ以テ

磨キ。猶モ輕クテ折モヤセントテ。鐵ヲソヘテ

篋中過ルニテ節ヲ通シテ入タリ。猶モ輕クテ

井本。不載羽ハ鷲梟鷄ノ羽ヲ嫌ハス。藤ハキニ卷タ

リ。箬コラヘスシテ破碎ケル間。角ヲ續テ朱ヲ

指タリ。箬コヲヘスレテ。云矢ノ根ハ楯破鎌倉本云

尾鳥舌ニモアラス。鑿ノ如クナル物ヲサキ細

ニ厚サ五分。廣サ一寸。長サ八寸ニウタセテ。マ

チキハヲハ篋ニスリキセ。氷ナトノ様ニトキ

磨タリ。刃本ニ油ヲサス。上矢ノ鏑ハナマ朴ヒ

イラキナトヲ以テ。目ノ上八角ニ押削リ。目九

ツサシタルニ。刃一寸手六寸。巨六寸ノ大雁股

ヲ子チスケタリ。三峯ニスリタテ。小長刀ヲ

峯ニモ刃ヲツケタレハ。三峯云々至此。杉原本不載

ニツ打違ヘテ。磁子ニ立タルニ異ナラス。斡ハ白

篋ニ。山鳥ノ羽。鶴ノ霜フリヲ合ハキニ。本四立

ニシテハキタリ。二十四指タル箆ニ。此鏑ヲ四

筋差添タリ。褐ノ直垂ニ。獅子丸ヲ縫タルニ。白

キ。倉本作黒。唐綾ヲフトク疊テ威シタル大

荒目。鎧獅子丸ノ裙。金物白覆輪ナルヲ著タリ。

鎌倉本半井本。練鐔ノ黒漆ノ太刀三尺八寸。鎌

無白覆輪字。熊皮ノ尻鞆入テ帶タリ。弓脇

半井本同本。塗籠藤ノ弓持。塙ヲ高紐ニカ

ニ挾三。鎌倉本云。杉原鎌倉本云。烏帽子引立云々。

武家物言

三三

父ノ跡ニ居替テ畏ル。京師杉原鎌倉本並云。為
翔ル翼地ヲ起ル獸サケ針ヲ新院母屋ノ御簾
モハツスト云事ナシ。云云。
ヲ綻ハシ敵覽アリ。龍顔頗咲壺ニ入セオハシ
マス云々。

左府京師杉原鎌倉本並云。大床ニ候シカ、遙ニ見
出シテ笑給フ。為朝既ニ參候。誠ニ由ケシキ
兵ニテ候。一人當千トハ是ヲ即合戰ノ趣計ヒ申
セト宣ヒケレハ。畏テ為朝久シク鎮西ニ居住仕
テ。九國ノ者共從ヘ候ニ附テ。大小ノ合戰數ヲ知
ス。中ニモ折角ノ合戰二十餘箇度也。京師杉原本
並云。二十度

ニ餘リ。三十度或敵ニ圍マレテ強陣ヲ破リ。或城
ニ及フ。云云。ヲ攻テ敵ヲ亡スニモ。皆利ヲ得ル事夜討ニシク
事侍ラス。然レハ只今高松殿ニ押寄。三方ニ火ヲ
懸。一方ニテ支候ハンニ。火ヲ遁レン者ハ矢ヲ免
ルヘカラス。矢ヲ恐レン者ハ火ヲ遁ルヘカラス。
主上ノ御方心ニクハ。モ候ハス。但兄ニテ候義朝
ナトユソ懸出スラメ。ソレモ真中差テ射通レ候
ナン。

○杉原本云。其外ノ奴原ヲハ。太刀引拔テ真中ニ

カケ入遠カラシ者ヲハ指及ヒ。近カラシ奴ヲ
ハ片手打ニ切テハ落シ。ナキ落シ拂落シ。近ツ
カン者ヲハ搔カキツキ提テサケ切ニ。切テハ落シ切
テハ捨。或ハ首ヲ切。或ハ腕ウデ引抜引サキナト
シテ馳廻ラハ。誰カハ面ヲ向ヘキ。マシテ清盛
ナト云々。

増テ清盛ナトカヘ口く矢。何程ノ事カ候ヘキ。鎧
ノ袖ニテ拂。蹴散ケチシテ捨ナシ。行幸他所ヘナラハ。
御免ユヅリサレヲ蒙テ。御供ノ者少ケ射ニスル程ナラ

ハ。京師杉原鎌倉半井四本並ニ。行幸他所ニナ
ラハ。御輿ニ矢ヲ進ラセ候ヘシ。定テ云ケ。

定テ駕輿カ下モ御輿ヲ捨テ逃去候ハニスラシ。
其時為朝參向ヒ行幸ヲ此御所ヘ成シ奉リ。君
ヲ御位ニ即ケ進ラセシ事。掌タテマヲ返ス如クニ候
ヘシ。主上ヲ迎へ進ラセシ事。為朝矢ニ三放サ
シスル許ニテ。イマ夕天ノ明サラン前ニ。勝負
ヲ決セン條。何ノ疑カ候ヘキト憚ハレ所モナク申
タリケレハ。左府。為朝カ申様以外ノ荒儀也。歳
ノ若キカ致ス所カ。夜討ナト云事。汝等カ同士

軍十騎二十騎ノ私事也。流石主上上皇ノ御國爭ニ源平數ヲ盡シテ兩方ニ有テ勝負ヲ決センニ無下ニ然ヘカラス。

○半井本云。我身ノ無勢ニテ多勢ノ中ヘカケ入テ。シリツギナクテ入コメラレナハ如何セン。今夜ハカリ相待ヘシ。云云。

○京師本杉原本鎌倉本竝云。源平兵數ヲ盡シテ引分ル。各故實ヲ存テ。互ニ思慮ヲ廻ス。用意疎ニシテハ甚叶フヘカラス。凡合戰ト云ハ謀ヲ

以テ本トシ。勢ヲ以テ先トス。然ルヲ院中ニ召置ル。所ノ軍兵幾ナラス。卒爾ニ發向セン事。然ルヘシトモ覺ヘス。云々。

其上南都ノ衆徒ヲ召ル。事アリ。興福寺信實源頼安子。玄實即信實等。吉野十津河ノ指矢三町。遠矢八町

ト云者共シ召具シテ。千餘騎ニテ參ルカ。今夜ハ宇治ニ著。富家殿忠實ノ見參ニ入。曉京師鎌倉本作卯辰時此ヘ參ヘシ。彼等ヲ待調テ。合戰ヲハ致ヘ

シ。又明日院司公卿殿上人ヲ催サンニ。參サル者

トモヲハ死罪ニ行フヘシ。首ヲ刎ル事兩三人ニ
 及ハハ。殘ハナトカ參サルヘシト仰ラレケレハ。
 爲朝上ニハ承伏申テ御前ヲ罷立テ
京師杉原鎌倉半井四本
云。御前ヲ罷立サマニ。高聲ツフヤキケルハ。和漢
ニツフヤキケルハ。云々。
 ノ先蹤朝廷ノ禮節ニハ似モ似又事ナレハ。合戰
 ノ道ヲハ。武士ニコワ任ラルヘキニ。道ニモアラ
 又御計ヒ如何アラン。

○京師本杉原本鎌倉本竝云。信實玄實ヲ待せ給
 ハン事。勢ヲ調テ御覽セン爲カ。
京師杉原本竝云。勝負ヲ決せ

シニハ時刻相延ヘシ。云々。 義朝ハ武畧ノ奥義云々。

○半井本云。明日ヲ待せ給ハハ。事軍兵ノカサヲ
 敵ニ見センタメカ。軍セン事如何アラン。義朝
 ハ云々。

義朝ハ武畧ノ奥義ヲ極タル者ナレハ。定于今夜
 寄ントソ仕候ラン。明日迄モ延ハコソ。吉野法師
 モ奈良大衆モ入ヘケレハ。只今押寄テ。風上ニ火
 ヲ懸タランニハ。戰フトモ争カ利有ニヤ。敵勝ニ
 乘程ナラハ。誰カ一人安穩ナルヘキ。口惜キ事哉

トソ申ケル。

將軍塚鳴動附彗星出事

去程ニ鳥羽殿ニハ。故院ノ舊臣左大將公教卿左

將京師本作左大臣杉藤宰相光頼卿光鎌倉本作大

原本作右大臣共非也。藤長隆子右大辨鎌倉本作

誤共右大辨顯時朝臣左少辨共非也。據辨官補任。

此時為ナト籠居シ給ヒケルカ。京師杉原鎌倉ヨリ彗星東方ニ出

申サレケ去ル八日京師杉原鎌倉ヨリ彗星見寅方

按一代要記保元元年七月十一日曉彗星見寅方

長六尺許色白同十二日三日間東北行至十五日曉

犯五諸侯三公許將軍塚頻ニ鳴動ス天變地妖舊作

星相去三寸許

地陽今占文ノサス所慎更ニ輕カラス新院御所
從異本。ニハ軍兵數千騎參集テ公卿殿上人ヲ召ニ參ラ
サル者ヲハ死罪ニ行フヘシト左府議セララルナ
レハ我等トテモ其難ヲ道ルヘカラス其上京中
ヲ燒拂内裏ニモ火ヲ懸テ攻ニ。行幸他所へ成
ハ御輿ニモ矢ヲ進ラセシト。爲朝トカヤカ
申ナレハ君トテモ安穩ニ渡ラセ給ハンヤ一院
隱レサセ給テ十箇日ノ内ニ懸ル不思議ノ出來
スルコソ浚マシケレ内裏ニモ仙洞ニモ御追善

御追善

ノ營ノ外ハ他事オハス間敷ニ。コハ如何成ヌル
 世ノ中ソヤ。天照大神ハ。百王ヲ守ラントノ御誓
 モ。盡ヌルヤラント申サレケル。京師杉原鎌倉半井
 四本竝云伊勢大神
官ハ百王鎮護ノ御誓殘カラス。然ルニ今當今御
 代ニ。王法ツキナシコソ口惜ケレ。云々。此下無光
頼卿。光頼卿。熟事ノ心ヲ思フニ。日本ハ是神國也。
 サレハ御裳河ノ流絶スシテ。既ニ七十四代ノ天
 津日嗣ヲ受給フ。七十四代。四。杉原本作六。共非也。
 鎌倉本作七。為得。按。後。白川帝實。
第七十七代。帝也。昔崇神天皇。御間城入彦五十
 瓊殖。開化帝。皇子。御時。天津
 社國津社ヲ定置レテヨリ以來。神ワサ事繁キ國ノ

營。只寶祚長久ノ為也。七千餘座ノ神祇。夜ノ守畫ノ
 守。ナシカハ怠リ給フヘキ。就中推古天皇。豐御食炊
 屋姫。欽明
帝。皇御時。上宮太子。以上六字本書脫。今依諸本補
 乏。按。上宮太子名。豐聰耳。用明
帝。皇子也。聖德太子。厩戸皇子。世ニ出テ。守屋物部
 上宮太子。八耳皇子。共其號也。子ノ逆臣ヲ亡シテ佛法ヲ弘メ。四天王寺ヲ建テ
 國家ヲ祈聖武天皇。天。重國押開。豐櫻
 彦。文武帝。皇子。東大寺ヲ建
 大神宮ノ御本地ヲ顯シテ。帝運ヲ祈請シ給フ。行
 基菩薩ハ。按。元亨釋書。姓。高志氏。泉州
 大鳥郡人。百濟王。之胤也。河州石河郡
 二四十九院ヲ建始給ヒテ。寶祚ヲ鎮護シ給ヒシ

ヨリ鎌倉本云行基菩薩ハ泉州大鳥郡ニ住シテ
寺ヲ四十九箇所ニ建國分寺ヲ六十餘州ニ
ワカチ給傳教大師姓三津氏最澄父百枝比叡
フ云々山ヲ開基シテ一乘妙典ヲ崇メ弘法大師ハ伯氏
名空海父田公醍醐高野山ヲ建立シテ真言ノ祕
帝賜謚弘法大師法ヲ修行シテ專天下ノ護持ヲ致ス殊ニ白河鳥
羽兩院佛法ニ歸シオハシマシテ國郡數神ニ裁
タリ田園多ク佛聖ニ寄ラル依テ三寶モ
裁岡崎國家ヲ守リ給フヘシ神明モ帝祚ヲ捨給ハシヤ
本作載其上此京ハ桓武天皇御宇延暦十三年十月二十

一日長岡京ヨリ遷サレテ後弘仁元年九月十日
 平城先帝諱安殿桓世ヲ亂リ給シカトモ此京ハ
 無爲也武帝皇子

○愚管鈔云平城嵯峨御中事ノ始テアシカリケ
 リ都遷ノ間イマタヒシトモ落イヌ程御心々
 ニテアシク成ヌワレモ平城ノ内侍ノカニ藥
 子カ所爲トイフ惡キ事ヲモ女人ノ入眼ニハ
 ナルナリ嵯峨東宮ノ間平城國主ノ時東宮ヲ
 廢シ奉ルヘキ由沙汰アリケリト後中書王ノ

御物語アリケリ。ツレハ傳大臣冬嗣申ス、メテ。事火急ニサフラフ。宗廟ニ申サシメ給フヘシトテ。桓武ノ聖廟ヲ拜シテ。東宮祈申給ヒシカバ。天下ニクレ行テ。平城此僻事思返ラセ給ヒケリトナシ。語ラセ給ヒケリ。云々。

○帝王編年記云。弘仁元年九月。太上天皇遷御。平安宮之間。尚侍藥子寵之。其兄右兵衛督藤仲成謀反之。由風聞。十一日上皇與尚侍同輿向關東。令大納言田村麻呂等追之。射殺仲成。畢。十二日

太上天皇旋宮。剃髮入道。前尚侍藥子飲藥而死。天下擾亂。藥子所為也。云々。

○神皇正統紀云。上皇平城尚侍藥子ヲ寵シケルニ。其弟參議右兵衛督仲成等申ス、メテ逆亂ノ

事アリキ。田村麻呂ヲ大將軍トシテ追討シラレシニ。平城ノ軍破レテ上皇出家セサセ給フ。

云々。按スレ仲成始末。具出於為義最期段。而諸實錄竝為藥子兄。此作弟者。恐誤。

其後帝王二十五代。星霜三百四十七年ノ春秋ヲ送レリ。二十五代。半井本作二十七代。三百四十七年。作三百四十八年。為是。自平城至後白河。

實二十七代也。自弘仁元年至其間ニモ朱雀院諱

保元元年三百四十八年也。明醍醐御宇ニハ將門平良純友藤良東西ニ亂逆

帝皇子。後冷泉諱親仁後朱ノ御世ニハ貞任安陪

子。賴良後宗任貞任兄弟謀反ヲ企。或ハ八箇國ヲ

從ヘテ八箇年合戰ニ。或陸奥ニ支テ十二年迄防

戰シカトモ。敢テ都ノ亂ニナラス。終ニ皇化ニ遵

ヒキ。

○帝王編年記云。天慶二年平將門謀反。武藏權守興世王亦以同意。下總國猿島郡石井郷南亭可

爲都朝。又左右大臣以下百官皆以黜定。但所闕曆博士許也。云々。

○扶桑畧記云。天慶二年將門謀反。亂逆。率千餘人

兵討取常陸國。云々。又云。天慶三年二月朔日。藤

原秀郷平貞盛等率四千餘人。兵於下野國與將

門合戰。云々。同十四日於下總國。貞盛爲憲。秀郷

等棄身忘命。馳向射合。時將門即中。貞盛矢落馬。

秀郷馳至斬將門頭。云々。按將門記。將門始起兵

承平六年也。至天慶三年。僅五年耳。此云八箇年

者未詳

○按扶桑略記帝王編年記天慶二年藤原純友等為海賊西國往還不通同三年按一代要記作四年。歷代皇紀作五年。十一月純友被誅云々。

○按陸奥話記歷代皇紀百練鈔等康平六年二月十六日前陸奥守賴義獻安陪貞任重任散位經清三人首云々帝王編年記一代要記百練鈔歷代皇紀竝云康平七年三月宗任正任等五人引率其身有朝議不入京中放遣伊豫國僧良昭遣

太宰府云々。又按陸奥話記貞任父賴良作亂始於永承中至天喜五年賴良滅而貞任等相繼作亂至康平滅此云十二年者蓋永承康平之間矣去ハ今モ誰人カ此京ヲ滅シ何者カ我君ヲ傾ケシ。南ニハ正八幡大菩薩男山ニ跡ヲ垂テ京都ヲ守リ。北ニハ賀茂大明神天滿天神東西ニハ稻荷祇園松尾大原野等光ヲ雙ヘテ日夜ニ結番シ禁圍ヲ守リ給フ。縱逆臣亂ヲナストモ争カ靈神ノ助ヲカルヘキト憑母敷ケニソ宣ケル。

主上三條殿行幸 附 官軍勢汰事

主上舊誤作上皇今改之

去程ニ内裏ハ高松殿ナリニカハ分内狹クテ便

宜惡カリナントテ俄ニ京師杉原本竝云卯刻半

誤說見于下本書編次錯東三條殿へ行幸成ル主上ハ御ヒ干

ナヲニニテ腰輿ニ召ル京師杉原鎌倉本神璽寶

劔ヲ取テ御輿ニ入進ラセラル御供ノ人々ニハ

關白殿内大臣實能左衛門督基實右衛門督公能

半并本作左衛門督頭中將公親朝臣左大臣藤實能子即公能

弟京師杉原左中將光忠大納言藤經實子據公卿

鎌倉半并藏人少將忠親權中納言藤忠宗子少藏

人右少辨資長中納言藤實光子右少辨京師杉原

官補任此時為右少辨右少將實宣諸本作實定為

以上二人半并本不載是藤公能子也

右少將京師杉原鎌倉三本作左少將皆少納言入

非也半并本作左中將為得據公卿補任道信西春宮學士俊憲

外記師季等也師季半并本作師業京師杉原鎌倉

子也師業大外記師安子也蓋師季者不當在此時出師于台記等諸書當時之人也因此見

之作師業者近是然無確據可熟考京師本杉原本鎌倉本半并本竝載刑部少輔貞

憲大舍人頭家行中務權少輔季家少輔鎌倉半并本並作大

輔上野介重家上野杉原半并本並作上總越中權守延俊杉原

本作宣俊半并本作越後守信俊而別載越中守正俊

○按主上自高松殿遷御東三條殿一節京師杉原

鎌倉本並載于段尾京師杉原鎌倉半并四本此

段序次先在高松殿召義朝議策令諸將向白河

殿而後幸東三條殿今并載其異同本書及岡崎

本謬誤自著矣

○百練鈔云保元元年七月十一日主上渡御東三

條云々

○皇年代畧記云保元元年七月十一日曉俄行幸

於東三條第云々

其時義朝御前ニ召レ其時字不穩編次之誤也說見于上京師杉原鎌倉半并

四本編次各異姑隨本書所出并載其異京師杉原鎌倉三本殊異別出于下可并見赤地錦

ノ直垂ニ折烏帽子引立テ脇立計ニ太刀帶夕リ

半并本云弓脇ニ挾三參ル云云少納言入道ヲ以テ軍ノ様ヲ召

問ハル義朝畏テ申ケルハ合戰ノ術ヤウクニ候

ヘ共即時ニ敵ヲ從ヘ立所ニ利ヲ得ル事夜討ニ

過タル事候ハス。就中南都ヨリ衆徒大勢ニテ。吉野十津河ノ者共ヲ召具シテ。千餘騎ニテ。今夜宇治ニ著明朝入洛仕由聞ヘ候敵ニ勢ノ屬又前ニ押寄候ハン。

○半井本云。義朝カ舎弟為朝猛ク勇メル兵也。吉野法師奈良法師待附テ。為朝大將仕テ。此内裏ヘ罷向候ナン。十万騎ノ勢ヲ指向ラルトモ。彼等カ箭サキニハ叶フヘカラス。金ヲ伸テ楯ノ面ニ伏タリ共向ヒ難カルヘシ。其上明日ニナ

ラハ兵疲レテ。物具ニ透間候ヘシ。然ラハ合戦弱カルヘシ。云々。

内裏ヲハ清盛ナトニ守護セサセラレ候ヘ。義朝ハ罷向テ。忽ニ勝負ヲ決シ候ハントソ進ケル。信西御前ノ床ニ候ケルカ。殿下ノ御氣色ヲ奉リテ申ケルハ。半井本云。信西薄墨染ノ直衣ニ。小狐ト申ケル。云々。太刀帶。仰ヲ奉リテ。御前。簀子ニ候テハ。云々。此議尤然ルヘシ。詩歌管絃ハ臣家ノ翫フ所也トイヘ共。ソレ猶昧シ。況武藝ノ道ニ於テシヤ。一向汝カ計ヒタルヘシ。誠ニ先スル時ハ人ヲ

制ス後ニスル時ハ人ニ制セラルト云ヘハ。今夜ノ發向尤也。然ラハ清盛ヲ留メン事モ然ルヘカラス。武士ハ皆々罷向フヘシ。誠ニ先云々至此。半御入興云云。後。為朝威ヲ輕シメ奉ル者豈天命ニ背サランヤ。早ク凶徒ヲ追討シテ。逆鱗ヲ休メ奉ラハ。先日來申處ノ昇殿ニ於テハ。疑アルヘカラスト申サレケレハ。義朝合戰ノ場ニ罷出テ。何ノ餘命ヲ存セン。只今昇殿仕テ。冥途ノ思出ニセントテ。押テ階上ヘ上リケレハ。信西コハ如何ト制

シケリ。主。上是ヲ御覽シテ御入興有ケルトナリ。半井本云。義朝合戰ノ場ニ罷向テ。命ヲ全フセン事ヲ存セス。死シテ後ハ何カセン。只今聽サレサラン昇殿ハ。イワツテ期スヘキトテ。押テ階上ル。信西狼籍也ト申。主上ハアサ笑ヒ御興ニ入給フ云々。

○京師本杉原本鎌倉本竝云。高松殿ニハ。南殿ニ出御。公卿僉議アリ。信西末座ニ候ス。袖小ナル淨衣ニ。家ニ傳タル小狐ト云ムク鞞ノ太刀ヲ帶。信西宣旨ヲ奉リテ。義朝ヲ召。義朝赤地錦鎧直垂ニ。脇楯小具足計ニテ太刀ヲ帶。烏帽子引

...

...

立庭上ニ跪ク。信西ヲ以テ仰下サレケルハ。汝ナキ親兄弟ヲ捨御方ニ參ル條。尤ニ感甚シ。然レハ大將ニ於テハ。汝ニ夕フ。忠節ヲ抽テハ。日來所望ノ昇殿不日ニ聽ヒサルヘキ也。其旨ヲ存知仕候ヘ。義朝畏テ申ケルハ。家ニ申傳タル事候。軍ニ出テ死ハ存ノ中ノ事。生ハ存ノ外ノ事也。然レハ愚命ニ於テハ。故院ノ御遺誠并宣旨ノ趣ニ換カヌレハ。骸カシヲ戰場ニ曝ササン事只今也。サレハ生テ再歸參スヘクハコソ。後榮ヲモ期サヌ。

天運ニ任スルヨリ外ハ。恃タ少キ命也。後日ニ敕許有ヘクハ。只今宣旨ヲ下サレタ夕候。其故ハ所望達シヌト存セハ。今少ホ勇ム心モ候ヘシ。所望達セスシテ。ニツナキ命ヲ捨シン事ハ。妄念共成。且ハ無念ニ候ヘシトテ。階下ニ近ク進ヨル。信西是コソ難義ノ次第ナレ。義朝カ先祖頼義義家朝敵ヲ平ケ。昇殿ヲ聽サルレトモ。親父為義イマ夕正シキ地下ノ檢非違使タリ。其子トシテ忽昇殿ヲ聽サレシン事。如何アルヘカラシ

參考傳元物語 卷一

九十三

ト奏シケレトモ。亂世ハ武ヲ以鎮ムヘシトイ
ヘリ。世既ニ亂タリ。義朝ヲ抽賞セスハ有ヘカ
ラスト云宣旨ノ下リケル上ハ。仔細ニ及ハス。
即其姿ヲ改メス。兵具ヲ帶シナカラ。階ヲ半ハ
カリ攀上ル。昇殿ノ儀式珍ラカ也。其後合戰ノ
次第計申ヘキ由仰下サル。義朝申ケルハ。合戰
ノ道區々ニ候ヘトモ。敵ヲシエタクル事ハ夜
討ニシカス。天ノ明サルサキニ。陣頭ニ押寄テ。
敵ノ上手ヲ打。是一ノ謀也。就中左府ノ權威ヲ

以テ。南都ノ衆徒ヲ召ル。其勢既ニ千餘騎ニ及
ヒ。明日參向スヘシト聞ユ。又舍弟為朝ハ。父為
義ニ屬シ。仙洞ニ祇候仕テ候。キヤツハ合戰ノ
道ニ賢シキ者ニテ候。彼輩ヲ相具シ押寄ニ
ハ。縱百萬騎ノ勢ヲ向テ。金ヲ伸テ楯ノ面ニフ
セタリトモ。是ヲ禦キ難シ。其上敵ノ寄ルヲ相
待。徒ニ日數ヲ送ルテラハ。人馬力疲。合戰ノ時
弱カルヘシ。此御所ヲハ清盛ナトニ守護サセ
ラレテ。義朝ハ時刻ヲ廻サス。夜中ニ押寄勝負

ヲ決スヘシト申。信西詩歌管絃ハ臣下ノ樂ム所也。其道猶以暗イハシ。況武道ニ於テヤ。合戰ノ道ニハ深ク汝ヲ頼思召所也。況又先スル時ハ人ヲ制シ。後ル、時ハ人ニ制セラルト云ヘリ。敵ノ上手ヲ擊ニト申條尤以肝心也。速ニ罷向フヘシ。兼テハ東國ノ勇士。汝ニ相從テ。多ク御方ニ參ル由。粗敵聞ニ及フ。是又敵感ナキニ非ス。義朝カ多勢ハ。天運ノ然ラシメ給フニ非ス。ヤ。君ノ功ヲ立ニトスル時ハ。必心ヲ將ニ推ス。

勝ヲ求ル時ハ必愛ヲ兵ニ致ス。將ハ君ノ恃ム所。兵ハ將ノ恃ム所。譬ハ身ハ臂ヲ使ヒ。臂ハ指ヲ使フコトニ。朝敵ト成者ハ天譴ヲ蒙ルモノ也。速ニ其輩ヲ誅シテ。宸襟ヲ休メ奉リ。公ノ忠ヲ抽テ。勲功ノ賞ニ誇ルヘシトソ仰ケル。下野守畏承テ罷出。義朝本陣ニ歸物具ス。其日ハ家ニ傳ルハ龍ヲ著タリ。ハ龍トハ龍ヲハツ、打テ。一ノ板ニ附ル故也。京師杉原本竝云。ハ龍トノ時。ハ幡大菩薩ノ使者ノ神ハ神守護ノ為。ハ大龍王ノ形ヲ。金ヲ以内魂ノ真向。鎧ノ胸板ヲ。

之ツケ。所々ニ附ケル間。八龍トソ名附タル。八
 領ノ鎧ノ中ニ殊ニ秘藏ノ重寶也。然間嫡々。ハ
 ルニ依テ是ヲ相傳ス。黒キ馬ノ太ク逞逞ニキ。既
 多。鑄懸地ノ金覆輪ノ鞍置テ引立タリ云々。既
 鞍ニ手打カケテ。馬ニ乗ントセラレケルカ。如
 何思ヒケン。手ニ拔入タル鞭ヲ拔出シテ。車宿
 リニヌテル車ノ立フチニ是ヲトチ附サス。兵
 共是ハ何事ノ立鞭ソト心得ス見ル所ニ。義朝
 日來望ツル昇殿ヲ。只今聽サレタルソ。陣頭ニ
 骸カミヲ曝ササン事只今也。誰カハカ、ル事アリト
 モ披露スヘキ。サレハ若キ子共ノ中ニ生殘ル

者アラハ。我父ハ、ヤ昇殿聽サレケリト是ヲ見
 コカシト思フ。忘形見ニコソト語ケレハ。兵皆
 鎧ノ袖ヲヲ濡シケル。其後馬ノ腹帶ヲシメ。兜
 ノ緒ヲシメテ既ニ打出ケルカ馬ヲ控へ半井本唯
 載此。此下一節云。内裏ニテ義朝兵共ノ中ニ打立
 紅ノ扇日ヲ出シタルヲ開キ使云々。而出於帝
 召問策之前。恐誤。愚管 紅ノ扇開キツカフテ云
 鈔。説出チ下。可并見。ケルハ。義朝武勇ノ家ニ生レテ此事ニ逢身ノ
 幸也。私ノ合戰ニハ。朝威ニ恐テ思フ様ニモ振
 舞ス。今宣旨ヲ承ル上ハ憚ル所ナシ。藝ヲ此時

ニ施ホトシ名ヲ後代ニ留ムヘシトテ威ヲ振フテヲ進ケル云ケ。

○愚管鈔云。内裏ニハ義朝カ申ケルハ。如何角イツトモナクテ。サ、ヘタル御計ハ候ニカ。軍ノ道ハカクハ候ハス。先只押寄テ蹴散クダシ候テノ上ノ事ニ候。為義頼賢為朝具シテ既ニ參候ニケリ。親ニテ候ヘトモ。御方ニカクテ候ヘハ。罷向候ハ、彼等モ引候ナン物ヲ。只寄候ナント頭ヲ搔テ申ケルニ。十日一日ニトキレス。通憲

法師候テ。如何如何ト申ケルニ。法性寺殿御前ニヒシト候テ。目ヲシハタ、キテ。ウチ見上。ウチ見上見テ。物モイハレサリケルヲ。實能公能已下是ヲマホリテ候ケル程ニ。十一日ノ曉。サラハトク追散シ候ヘト云出サレタリケルニ。義朝ハ喜テ。日出シタル紅ノ扇ヲハラクトツカヒテ。義朝軍ニ逢事何箇度ニ成候ヌル。皆朝家ヲ恐レテ。如何ナル咎とがヲカ蒙リ候ハンスラント。胸ニ先コタヘテ恐候キ。今日追討ノ宣旨

蒙テ。只今敵ニ逢候又ル心ノ涼シサコソ候ハ
子トテ。清盛ト手ヲ分テ。三條内裏ヨリ。中御門
ニ寄參ケル。云々。

十一日寅刻。官軍既ニ院ノ御所へ押寄ル。折節東
國ヨリ軍勢上リ合テ。義朝ニ相從フ兵多カリケ

リ。先鎌田次郎正清藤通清子。此下京師杉原鎌倉
半井四本載河内源太朝清鎌

倉本半井本不名。河
内。半井本作河原。始トシテ。後藤兵衛實基藤
實

遠子近江國ニハ佐々木源三秀義源
為俊子八島冠者重實
源重

宗子美濃國ニハ平野大夫大夫京師杉原鎌倉
半井四本作平太吉野

太郎半井本
無野字尾張國ニハ舅熱田大官司按系譜名
季範姓藤

原。父曰季兼。為熱田大官司。先是為大官司者。世尾

張氏也。自季範補祠官。改藤氏云。玉葉集神祇部載

尾張貞職女嫁藤原季兼。生季範。嘗有神力奉ル家

託。季範始為祠官。自是藤氏世々相承。力奉ル家

子郎等。三河國ニハ志多良京師本杉原本作設樂
兵藤武者。武者半井本

作武士。鎌倉倉本作三中條京師杉原鎌倉
半井四本無遠江國ニハ横地勝

侯井八郎駿河國ニハ入江右馬允半井本有
三郎字高階

十郎高階京師杉原岡崎本
作葦科。半井本作與州興津四郎興津本書及
京師本作息

津今從杉原
本鎌倉本蒲原五郎蒲原舊作神原。今從
異本。但半井本不載伊豆ニ

八狩野工藤四郎親光藤茂光子。四郎系
圖及東鑑作五郎同五郎親

成相模二八大庭平太景吉同三郎景親景吉半井本作景義

為是。按景義景親世系。系圖諸本有異。山内須藤刑

部丞俊通藤義通子。須藤京師本。其子龍口俊綱海

老名源八季定源季兼子。源八半井本作。秦野次郎

延景秦野。杉原鎌倉半井本並作。波多野為是。下皆

小次郎義通。半井本作和田。又誤。京師杉原鎌倉本作

二。唯岡崎本前後作義通。今按世系未詳。系圖一本

佐藤筑後權守遠義子。有波多野次郎義通。義景義

景子。有信景。難適從耳。且諸異本或稱義通。或延景

信景。共是為一人。未可知孰是。下並偽之。又按東鑑以

波多野義通為筑後權守遠茂二男。以義景為義通

子。與系圖異。荻野四郎忠義。京師杉原鎌倉安房二

也。可并考。

八安西金餘沼平太丸太郎武藏二八豊島四郎京豊

師本作手。半井本。中條新五新六。成田太郎箱田次

載。安達四郎遠光。箱田京師本作蓬。河上三郎。三郎半井本作太郎

郎。箱田京師本作蓬。河上三郎。三郎半井本作太郎

杉原本不載。別府次郎。奈良三郎。玉井四郎。長井齋藤別

不載。當真盛。半井本作真守。非也。鎌倉本作實盛。為是。下

皆偽之。按系圖實盛藤實直子。長井流號齋

藤子孫在武藏。號在藤本。姓在原也。云々。未知何據。又按系圖實直下云。養子。然則實直本。姓在原歟。未詳所同。三郎真負。京師杉原鎌倉半井四本不名。系由。各出。于下。

○半井本云。横山二八惡二平山六二源五二二郎熊

谷次郎直實平直貞子榛澤六郎成清了井ハラト猪

股二八按系圖猪股小平六名範綱小野資綱子河

勾三郎手基七郎兒玉二八庄太郎同次郎村山

二八云云

○京師本杉原本竝云丹治成清榛澤六郎京師本無六郎

字兒玉二八庄太郎同三郎秩父武者所京師本無所字

栗原京師本作栗飯原太郎猪股二八岡部六彌太金平

六河津京師本作河勾三郎手薄加七郎村山二八金子

十郎山内京師本作山只六郎仙波七郎西二八日次惡

次平山高家二八云々

○鎌倉本云兒玉二八惡次平山栗飯原上猪股二

岡部六彌太金平六河勾三郎手科七郎庄二郎

秩父武者高家二八云云

横山惡次惡五平山相原兒玉二庄太郎岡崎本載同次郎

猪股二岡部六彌太按系圖岡部六彌太名忠澄藤秦綱子又系圖異本云姓小野

氏行村山二金子十郎家忠平家山口十郎半井本忠子

六郎本書第二卷作仙波七郎自村山至此高家二

諸異本高家二八河越云々按高家非仙波名也系圖一本云村山小七郎平家繼後稱山口其子有山

口六郎家俊。仙波七郎家信。河越師岡。杉原本作師

蓋此云山口仙波即是矣。秩父武者。京師杉原鎌倉本不

諸岡。秩父武者。載于此。既見于前。上總二八介

八郎。鎌倉本作弘常。半井本作廣繼。按系圖作廣常

于此。故唯註其父。下總二八千葉介經胤。胤為是平

關考耳。餘皆准之。太郎。京師杉原鎌倉半井

子。上野二八瀬下太郎。四本。作四郎。鎌倉本無瀬

字。物射五郎。物射鎌倉岡本介。杉原本有五郎字。本

名波太郎。名波。杉原鎌倉半井下野二八八田四郎。按

圖。八田知家。號四郎。藤宗綱子。或云實源。足利太郎

義朝子賴朝。兄。此云八田四郎。蓋知家歟。京師本

按名俊綱。藤家綱子。京師常陸二八中宮三郎。京師本

郡三關二郎。名俊平。藤政家子。按東鑑云。小山朝政

俊平弟。有太郎四郎政平。朝政再從兄弟也。第二甲

卷白河殿攻落段。半井本作關。次郎俊平。可并見

斐二八鹽見五郎。鹽見鎌倉本同六郎信濃二八海

野望月諏訪時乘原安藤。京師杉原鎌倉半井本並

者。乘原安藤次。安藤三。云々。木曾中太。彌中太。根井

京師本半井本。蔭田作舞田。大野太。按根津神平。神京

大矢太。半井本作下根井大野太。按根津神平。神京

作甚。半井本作新。按系圖。彌親子。靜妻小二郎。或作志妻

三百餘騎トノ註ニ夕ル京師本杉原本云宗徒ノ兵四百餘騎都合一千餘

騎云々鎌倉本云郎等乘替都合四百餘騎ニテ馳參云々半井本云宗徒ノ者二百五十餘騎ニテ馳

向云々清盛ニ相從ノ人々ニ八弟常陸介頼盛介舊作宗

今改淡路守教盛京師杉原鎌倉三本作河内守共非也大夫經盛嫡

子中務少輔重盛次男安藝判官基盛郎等ニ八

○京師本鎌倉本竝云郎等ニ八季貞貞能盛國季平

衡盛俊盛俊世系出平古市伊藤武者云々

筑後左衛門家貞按系圖諸本世系不一或作駿河守貞季孫筑後守範季子或作右

京進正季曾孫進平太範季孫進三郎大夫季房子平家物語曰家貞者本工頭貞光孫進三郎大夫家

房子盛衰記曰進三郎大夫季房子左兵衛尉家貞者木工右馬允貞光孫也據此家貞為貞光孫明矣

季房家房其子左兵衛尉貞能半井本作同新與三蓋一人也

兵衛景安半井本作景康

○半井本載新兵衛尉家季薩摩右馬允兵藤瀧口

兼季同小太郎兼道八幡美豆左近將監同太郎

同次郎河内草香授源大夫按此下本書屬頼政之中有授薩摩兵衛

此載授源大夫伊勢國ニ八云云夫者可疑

民部大輔為長其子太郎為憲河内國ニ八草刈部

十郎大夫定宣草刈部杉原瀧口家綱同瀧口太郎本作草壁

家次伊勢國二八故市半井本作古舊伊藤武者景

網同伊藤五忠清伊藤六忠直同京師杉原鎌倉三

本云白子黨伊賀二八山田小三郎惟之本此下半井

ノ者云々杉原本鎌倉本作惟行半井本或作惟行或不行

即云々備前國住人難波三郎經房鎌倉本作難波

井本戴同四郎光兼備中國住人瀨尾太郎兼康

和田平太遠藤六播摩次郎筑岐源太其勢都合六

源太共是渡邊黨也當屬兵唐頭源賴政二相從

賴政鎌倉本誤出于此耳

兵誰々先渡邊黨二省播磨次郎源滿授薩摩兵

衛子連源太源教與右馬允省競龍口源昇丁七唱子

教子半井始トシテ二百騎許也半井本百騎二

師本鎌倉本云賴政百餘佐渡式部大輔重成百騎

京師本鎌倉本作七十餘陸奥新判官義康百騎出

羽判官光信百騎周防判官季實五十騎京師鎌倉

餘騎隱岐判官惟重七十餘騎京師鎌倉半井平判

官實俊六十餘騎京師鎌倉半井進藤判官助經

五十餘騎京師鎌倉半井和泉左衛門尉信兼八十餘

騎。京師本鎌倉本不載。左衛門。半井。都合一千七百餘騎。トソ註シタル。
本作右衛門。其勢七十餘騎。云云。

○京師本杉原本鎌倉本半井本並云。都合四千五百餘騎。鎌倉本作二千三百騎。半

百餘騎。并本作一千五百餘騎。我先ト馳向フ。

鎌倉本云。義朝ハ二條ヲ河原ヘ出。其外ハ追々打出。而無以下文。賴政ハ一陣ニ

コソ進ケレ。半井本云。春日末ノ門ヘ馳寄ケル。而無以下文。比ハ七月

十日夜曉闇ノ空ナレハ。東西ノコトモ知子ト

モ。敵ノ籌ヲシルヘニテ。大炊御門東京師本作西。

河原ニ打出云云。此下京師杉原鎌倉半井四本載。主上遷幸。東三條。說見于前。

而下又載一節。各出于左。

○京師本杉原本鎌倉本並云。左大臣殿又為義ヲ

召。世間ノ事合戰。次第御談合アリ。判官申ケル

ハ。為義既老骨ヲ振テ參候ノ上。所存ノ旨ヲ爭イ事

カ一言申サテ候ヘキ。案シ候ニ。内裏ニ參集ル

兵共其數候トモ。思フニサユワ候ラヌ。為義此

勢ヲ以テ。ナトカ防カテ候ヘキ。若此モレ御所ヲ出

サセ給ハハ。南都ヘ御幸成シ奉リ。宇治橋ヲ引

テ。暫ク世間ヲ御覽候カ。ソレニ猶叶ハスハ。東

國へ御幸ヲ成シ奉リ。足柄箱根ヲ伐塞キ。東八
箇國ノ相傳ノ家人等相催シテ。都へ返シ入進
ラセシ事。案ノ内ニ候ト申ケレハ。左大臣殿。為
義カ條々ノ申狀。其理然ルヘシ。但我君ハ是天
孫ノ御末ヲ受マシクテ。御裳濯川ノ流悉クマ
シクキ。縱御位ヲ去給フトモ。太上法皇第一御
子。御在位ノ間萬國穩ナリキ。一宮又嫡々ノ正
統ニテ渡ラセマシマス。然ルヲ負外ノ四宮ニ。
位ヲ超ラレマシマス事。神慮ノ御誤人望ノ遺

恨只此事ニアリ。然レハ此時如何ナル御計ヒ
モナクハ。何ノ日ヲ期シマシマスヘキ。サレハ
此御所ヲ退テ。他所へ出サセマシマサシ事。一
切アルヘカラス。志ヲ勵マシ。忠節ヲ抽テ軍功
ヲ極メ。朝恩ニ誇ルヘキ也ト仰ケレハ。サテハ
善惡。為義先命ヲ捨テ左右アルヘキ也トテ罷
立。云云。

○半井本云。左大臣殿為義ヲ召。閑ニ御問答アリ。
此世中ハ如何アルヘキ。合戰ノ様計申ヘシト

仰ヲ蒙テ申ケルハ。御所ノ兵ヲ以テナトカコ
 ラヘテ候ヘキ。此御所ヲ出サセ給ハヌ物ナラ
 ハ。合戰ニ於テハ。先為義命ヲ捨テ。其後勝負ハ
 見ルヘシ。若此御所ヲ出サセ給ハヌ。云云。此間
為義開答。文。與。京師。杉。原。鎌倉。本。粗。同。故。畧。之。此時如何ナル御計モナ
 クハ。イツノ日ヲカ期サセ給フヘキ。汝等命ヲ
 輕シ。莫大ノ勲功ニ誇候ヘト仰含ラル。云云。
 ○愚管鈔云。十一日議定アリテ。世中ハイカニク
 ト訶リケルニ。為義ハ新院ニ參テ申ケル様ハ。

無下ニ無勢ニ候。即從ハ皆義朝ニ附候テ。内裏
 ニ候。僅小男二人候。何事ヲカハシ候ヘキ。此御
 所ニテ待軍ニ成候テハ。少モ叶候ニシ。イソキ
 くテ。只宇治ニ入セオワシマシテ。宇治橋引候
 テ。暫モヤ支ラレ候ヘキ。サ候ハヌハ。唯近江國
 ニ御下向候テ。甲賀山ヲ背ニアテ坂。東武士候
 ナンス。遅ク參候ハ。關東ニ御幸候テ。足柄山
 切塞キ候ナハ。漸京中ハタ、且候ハシ物ヲ。東
 國ハ頼義義家カ時ヨリ。為義ニ從ハヌ者候ハ

ス。京中ハ誰モ誰モ。事カラヲコソ窺ヒ候ラヌ。
 セメテナラハ。内裏ニ參テ。一アテシテ。イカニ
 モ成候ハ、ヤト申ケルヲ。左府御前ニテイタ
 クナ急キソ。只今何事ノアランスルソ。當時寔^{コト}
 ニ無勢氣ナリ。大和國ヒカキノ冠者ト云者ア
 リ。吉野ノ勢催シテ。頓^トテイソキ參レト仰テキ。
 今ハ參ルラン。シハシアクルニテトシツメラ
 レケレハ。コハ以ノ外ノ御事哉トテ庭ニ候ケリ。

參考保元物語卷第一終

